

外部評価委員会資料

—本校の現状と課題—

広島商船高等専門学校

平成 23 年 6 月 1 日

目 次

1. 本校の現状と課題	1
2. 各学科等の現状と課題	
2－1. 一般教科	6
2－2. 商船学科	10
2－3. 電子制御工学科	14
2－4. 流通情報工学科	20
2－5. 専攻科	23
3. 支援センター等の活動状況	
3－1. 技術教育支援センター	30
3－2. メディア教育基盤センター ..	34
3－3. 練習船広島丸	36
3－4. 国際交流推進室	39

広島高専の現状と課題

外部評価委員会
平成23年6月1日
学校長 村上定瞭

学校の目的

<使 命>

①社会で活躍できる人材の育成。②地域社会の発展への貢献。

<校 是>

①丁寧な教育、②手厚い学生支援、③きめ細かい進路指導

<教育理念>

①豊かな人間性、強い精神力及び高い倫理意識を持ち、
②将来社会において活躍するための知識と技術を身につけ、
③生涯にわたって学ぶ力を備えた人材の育成。

<育成すべき人材像>

本科課程

①基盤となる幅広い知識・技術とともに、
②特定の専門領域において基礎的知識・素養をしっかりと身につけた
③実践的・創造的技術者の育成。

専攻科課程

①複合領域に対応できる幅広い視野を身につけ、
②高い課題設定・解決能力を備えた
③実践的・創造的技術者の育成。

学校の特徴

○教育環境

瀬戸内海の恵まれた自然環境と110余年の長い伝統を有する学校

○人材像

高い人間力と知識・技術を有する船舶、工学または情報・経営の専門家の育成

○教育方法

実践的知識・技術の修得を重視した講義と実技による職業教育

○人間教育

課外活動や学寮生活により、社会を強く生きる力の育成

○就職状況

求人倍率は10倍を超え、就職希望者の就職率は100%

○進学状況

20%程度の学生が専攻科や大学3年次へ進学

志願者数の推移

年 度	定員	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
商 船	40	42	48	48	54	82	48	63	48	80	89
電 子	40	37	68	53	45	60	55	55	54	64	72
流 通	40	63	51	62	53	70	61	63	53	68	63
合 計	120	142	167	163	152	212	164	181	155	212	224
倍 率	—	1.2	1.4	1.4	1.3	1.8	1.4	1.5	1.3	1.8	1.9

入学者数の推移

年 度	定員	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
商 船	40	28	29	38	36	45	40	45	44	49	46
電 子	40	29	37	42	31	43	42	38	43	52	46
流 通	40	42	34	46	33	43	43	30	35	54	43
合 計	120	99	100	126	100	131	125	113	122	155	135

在籍者数の推移

年 度	定員	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
商 船	240	203	196	197	196	204	201	218	226	242	244
電 子	200	189	184	179	171	178	194	185	174	190	200
流 通	200	190	190	202	190	194	193	183	175	199	196
合 計	640	582	570	578	557	576	588	586	575	631	640

1-5年の全定員充足率の推移

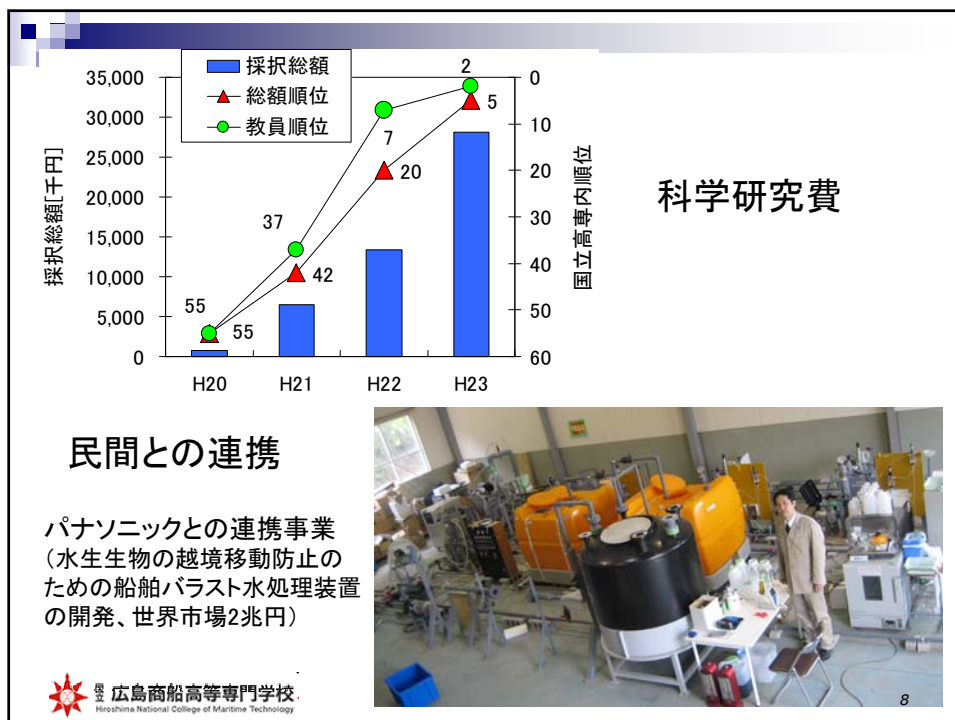
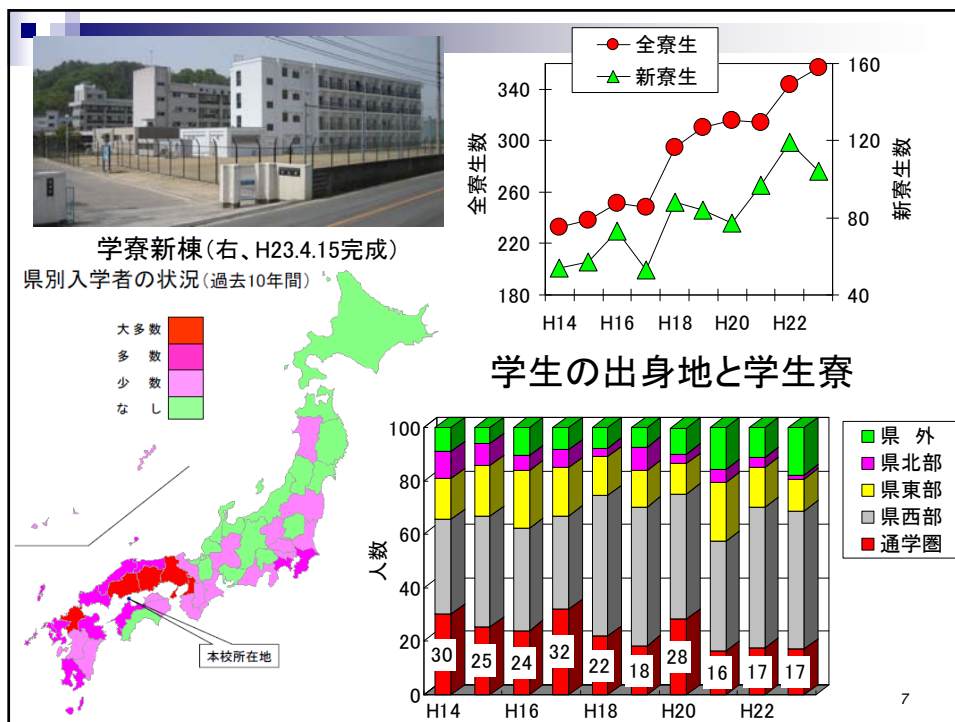
年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
商 船	0.85	0.82	0.82	0.82	0.85	0.84	0.91	0.94	1.01	1.02
電 子	0.95	0.92	0.90	0.86	0.89	0.97	0.93	0.87	0.95	1.00
流 通	0.95	0.95	1.01	0.95	0.97	0.97	0.92	0.88	1.00	0.98
合 計	0.91	0.89	0.90	0.87	0.90	0.92	0.92	0.90	0.99	1.00

卒業者数の推移

年 度	定員	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	平均
商 船	40	31	30	29	32	31	34	19	29	28	27	29
電 子	40	26	36	35	35	32	25	37	37	27	30	32
流 通	40	25	27	31	41	38	37	30	39	26	42	34
合 計	120	82	93	95	108	101	96	86	105	81	99	95

入学者数に対する卒業率の推移

年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	平均
商 船	0.76	0.65	0.66	0.84	0.72	1.21	0.66	0.76	0.78	0.60	0.76
電 子	0.67	0.80	0.80	0.78	0.78	0.83	1.00	0.88	0.87	0.70	0.81
流 通	0.69	0.75	0.74	1.00	0.86	0.88	0.88	0.85	0.79	0.98	0.84
全 体	0.71	0.73	0.73	0.87	0.79	0.96	0.86	0.83	0.81	0.76	0.80



学生の活躍



H22年全国高専体育大会
(バレー女子準優勝)

 広島商船高等専門学校
Hiroshima National College of Maritime Technology



2010キャンパスベンチャーグランプリ
(中国エリア・最優秀賞)



H22年全国高専体育大会
(卓球男子ダブルス優勝
男子シングルス準優勝)

一般教科

外部評価委員会
平成23年6月1日
一般教科長 澤田大吾

1. 一般教科の目的

- (1) 人文・社会・自然科学の基礎知識を修得する。
- (2) 豊かな心・人間力・規範意識及び広い視野・素養を身につける。
 - ① 保健・体育・芸術や社会科学の科目を学び、豊かな心・規範意識や人間力を養い、他者や社会の多様な状況を理解できる知識を身につける。
 - ② 国語や英語の科目を学び、地域や国際社会で活躍するための理解力やコミュニケーション基礎力を身につける。
 - ③ 数学、物理や化学の科目を学び、自然科学を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける。

2. 一般教科教育の現状と課題

① 混合学級の成果と問題点

平成22年度 ⇒ 1年生のみの混合学級
(3学科を4クラスに均等配分で編成)

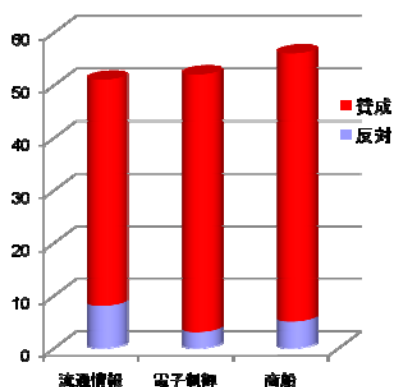
155名の入学者 + 7名の原級留置者 = 162名
(41名2クラス・40名2クラスの4クラス編成)

混合学級の目的

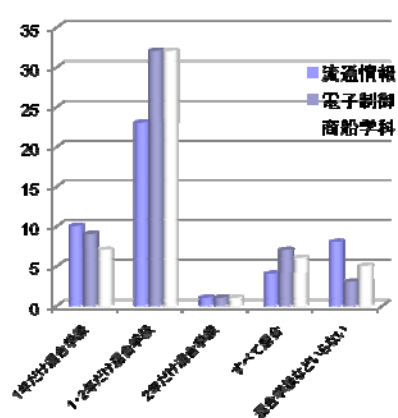
1. 学生間のコミュニケーションの拡大
2. 複合的な視点を持つ専門技術者の育成
3. 低学年教育における問題解決(いじめ・暴力など)
4. 少人数によるきめ細やかな教育

混合学級に関する学生アンケート結果

混合学級に賛成？反対？



混合学級はいつまで？



② 習熟度別授業の仕組みと成果

＜数学＞ 習熟度別クラスを4クラスに編成

- 1 少人数教育 ⇒ きめ細やかな教育が可能
- 2 クラスにより各教員が独自の練習問題を作成
⇒ 学生にとって負担にならないスピード

＜英語＞ 習熟度別クラスを4クラスに編成

- 1 習熟度別クラスの学生の英語修得状況を比較検討
- 2 習熟度別クラスを常に改善し、その成果を他の英語科科目に生かす

③ 高専共通学力試験の状況と対策

＜数学＞

- ① e-Learning教材(数学自学自習用)の利用と並行して、数学教員の作成する練習問題を活用
- ② 数学Aの一部の時間をさいて1・2年生の復習を徹底

＜物理＞

- ① 物理担当教員だけでなく学校全体で到達度試験問題を独自に作成
- ② 高専生のためのe-Learningサイトを利用し、担当教員による独自の過去問題詳解を配布し、学生の自学を促す

＜英語＞

- ① 実用英語技能試験(英検)を、本校を準会場として実施
- ② TOEIC(IP)対策を講じ4年生全員に受験させる(300点目標)

3. 一般教科における重点課題と具体的戦略

① 混合学級の改善と継続

⇒ 平成23年度から1年生だけでなく、2年生にも導入
(2年生は混合学級でクラス替え)

② 少人数教育

⇒ 学生とのコミュニケーション機会を増やす(学生理解を深める)
⇒ きめ細やかな教育の実践

③ 資格・検定・表彰

⇒ 学生の資格取得の実践・外部評価となる場(表彰)の機会を増やす
英検・TOEIC・数学検定・読書感想文(校内表彰)
『税に関する作文』(国税局主催)『金融に関する作文』(金融庁主催)など

商船学科

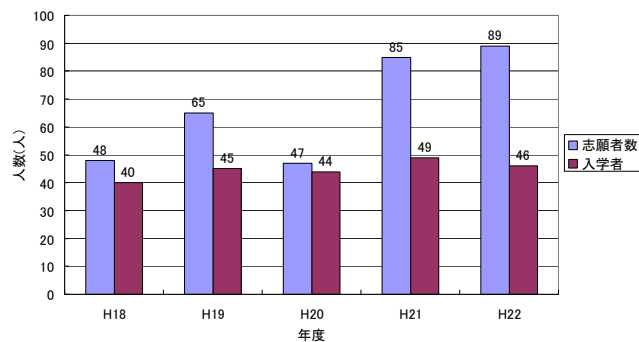
外部評価委員会
平成23年6月1日
学科長 笹 健児

商船学科の目的

- (1) 船舶の運航や管理に関わる知識と技術を身につけ、世界の海で活躍できる海事技術者を
目指す。
- (2) 三級海技士を取得し、さらには二級海技士、
一級海技士の筆記試験合格を目指す。

志願者・入学者の推移

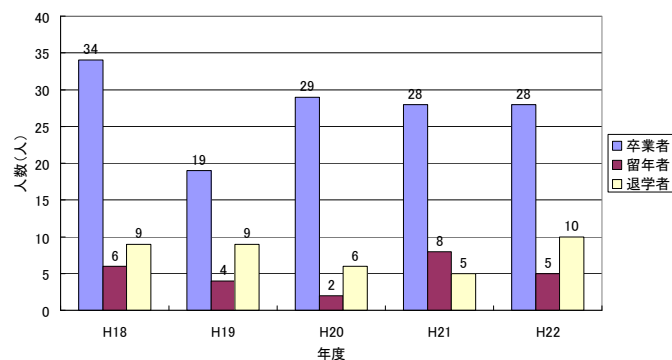
商船学科の志願者・入学者



- H18年度、H20年度は志願者が少ない
 → H21年度、H22年度は2倍以上の志願者
 → 広報活動の効果が徐々に出てきている

卒業生・留年者・退学者の推移

商船学科の卒業生・留年者・退学者

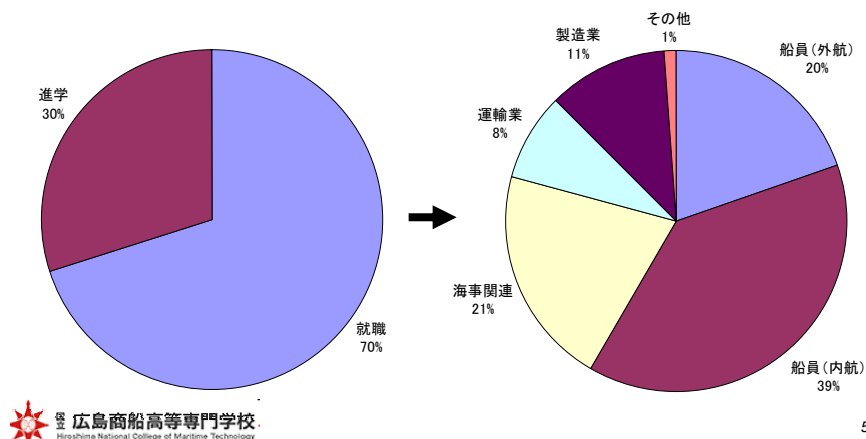


- H19年～H22年度: 卒業生が30人を切る
 → 入学者の定員割れ、留年・退学者の影響

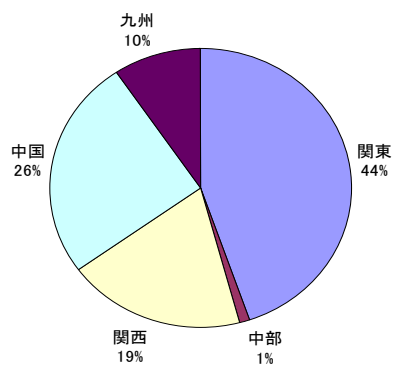
商船学科の進路状況

就職率・・・就職70%、進学30%

船員(59%)、海事関連(21%)、陸上企業(20%)



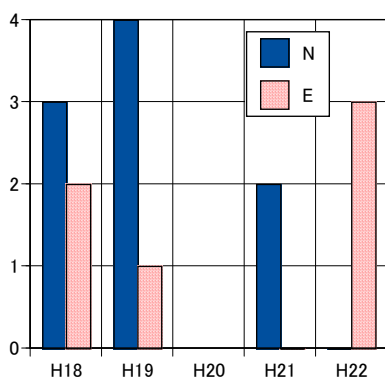
商船学科の進路状況



進路指導の特徴

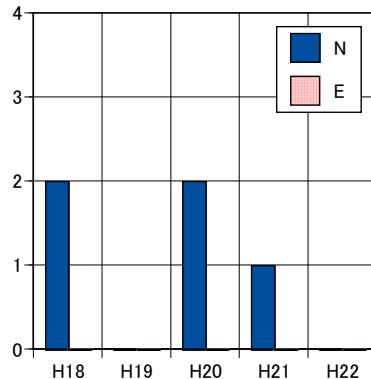
- ①航海・機関コースごとに就職担当の教員を配置
- ②就職活動にあたって個別の指導
- ③OBを中心に会社説明会を多く実施

国家試験の合格状況



二級海技士

(5年間で18名合格)



一級海技士

(5年間で5名合格)

商船学科の重点課題・戦略

① 志願者の増加(県外、機関コース)

広島県内だけでなく、他県からも志願者増加を目指す
(5商船高専での合同説明会、複数校受検制度、様々な
広報活動など)

② 国家試験の合格者増加を目指す

国家試験の受験者を対象とした補習を学科でワーキン
ググループを設置し、実施

③ 航海実習の見直しを含めたカリキュラムの再検討、STCW条約の改正への対応

電子制御工学科

外部評価委員会
平成23年6月1日
学科長 成清勝博

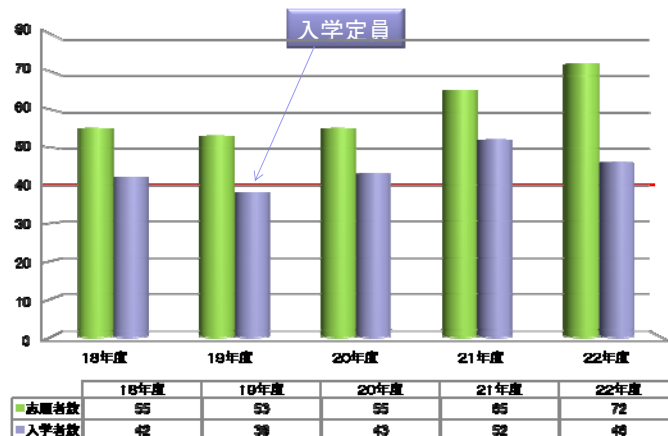
1. 電子制御工学科の目的

電子制御に関わる基本的な知識と技術を身につけ、高度工業化社会において活躍できる実践的メカトロニクス技術者を目指す。

- (1) 電気・電子、機械、計測・制御、情報の4分野に関わる基礎知識を修得する。
- (2) 電気・電子回路、機械加工、コンピュータ制御に関する基礎技術を身につける。
- (3) 「ものづくり」実習や卒業研究に取り組み、実践的技術力や創造力を身につける。

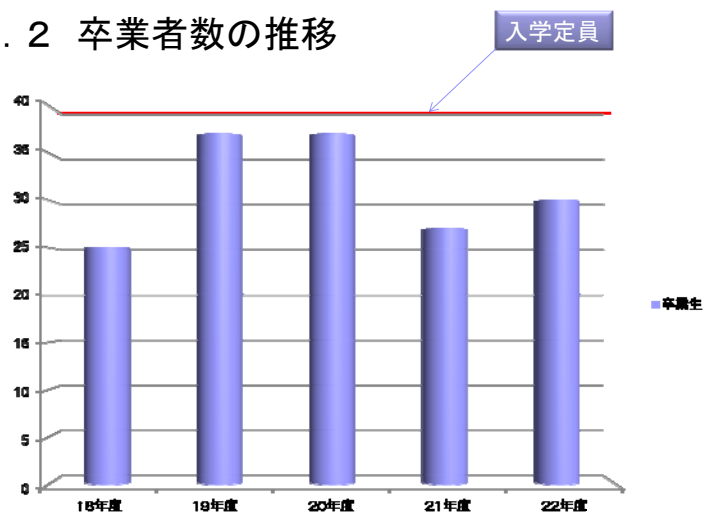
2. 専門教育の現状

2.1 志願者数と入学者数の推移



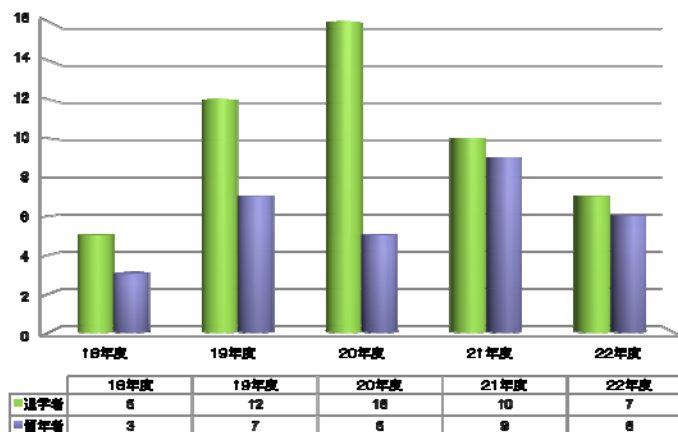
2. 専門教育の現状

2.2 卒業者数の推移



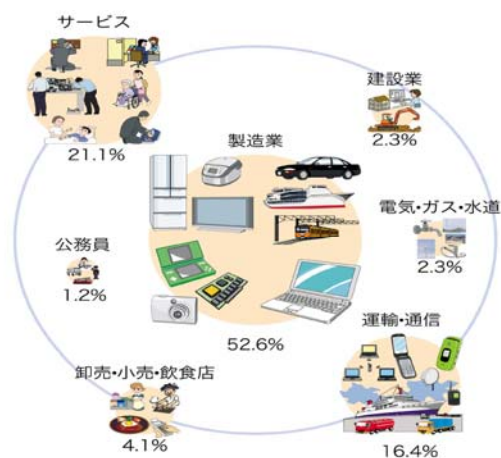
2. 専門教育の現状

2.3 留年・退学者数の推移(1～5年生の合計)



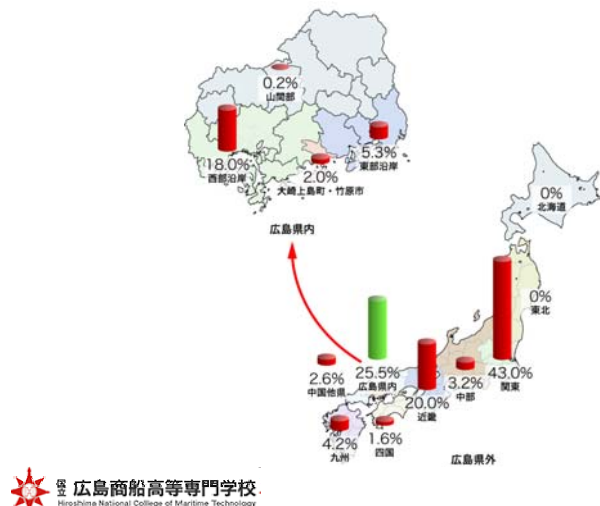
2. 専門教育の現状

2.4 進路の状況(産業分野別就職先)



2. 専門教育の現状

2.4 進路の状況(地域別就職先)



7

2. 専門教育の現状

2.4 進路の状況(過去3年間の主な進路先)

	進路先	人数	進路先	人数
主な就職先	旭化成	2	ダイキン工業	2
	出光興産	2	中国電力	1
	INAX	2	中電工	1
	NTTコミュニケーションズ	1	トヨタテクニカルディベロップメント	1
	花王	1	日本たばこ(JT)	2
	KDDIテクニカルエンジニアリング	1	日立アプライアンス	2
	コベルコ建機	1	日立ビルシステム	3
	JFEスチール	2	マツダ	1
	JR東海	2	三浦工業	1
	JR西日本	2	三菱電機福山製作所	1
	瀬戸内共同火力	2	横河フィールドエンジニアリング	1
進学先	総合警備保障	1	リコー	1
	豊橋技術科学大学	4	長岡技術科学大学	1
	会津大学	1	広島商船高専専攻科	18

8

2. 専門教育の現状

2. 4 進路の状況(進路指導体制)

担当者

5年生の担任(学科長が補佐)

- ① 3～5年間 担当者を変えない
- ② 教授から選出

個人指導

卒業研究担当教員

履歴書作成、面接対策等の個人指導

3. 電子制御工学科の重点課題と具体的戦略

(1) 3年生までの専門基礎教育段階において、理解不足のため、学習意欲をなくしてしまう学生が多い。

導入科目の設定

1年生

中学課程の復習

2年生の専門科目の予習

・電子制御工学基礎I

2年生

3年生以降の専門科目に
対する概論と予習

・電子制御工学基礎II

・機械工学基礎

3. 電子制御工学科の重点課題と具体的戦略

(2)ものづくりの経験がほとんど無い学生に、学習意欲を持続させることが困難。

実験実習の見直し

1年生～3年生
時間内のレポート作成指導等のきめ細かい教育を行う

3, 4年生
半年間のものづくり実習プレゼンテーション

流通情報工学科

外部評価委員会
平成23年6月1日
学科長 土屋政憲

1. 流通情報工学科の目的

- 流通・ビジネス系または情報・通信系に関わる基本的な知識と技術を身につけ、ICT社会において活躍できるビジネスパーソンまたは情報技術者を育てること。

ICT 社会

流通・ビジネス
基本知識・技術

情報・通信
基本知識・技術

学 生

2. 流通情報工学科の現状 ①

- 在籍状況
 - 1年:44(男子29 女子15)
 - 2年:51(男子32 女子19)
 - 3年:38(男子22 女子16)
 - 4年:26(男子15 女子11)
 - 5年:37(男子18 女子19)
 在籍数合計:196
(男子59%・女子41%)

■ 志願者・入学者・留年者・退学者・卒業者数

年度	志願者	入学者	留年者	退学者	卒業者
平成18年度	61	43	4	8	37
平成19年度	63	30	2	11	30
平成20年度	53	35	4	5	39
平成21年度	62	54	3	6	26
平成22年度	63	43	4	5	42
平均	60.4	41	3.4	7	34.8

2. 流通情報工学科の現状 ②

■ 進路の状況 【平成22年度の実績】

- 卒業42名(男子学生18名・女子学生24名)

【就職31名(男子学生13名・女子学生18名)】

○内訳 情報通信業14・物流業8・製造・販売業8・金融業1

【進学11名(男子学生5名・女子学生6名)】

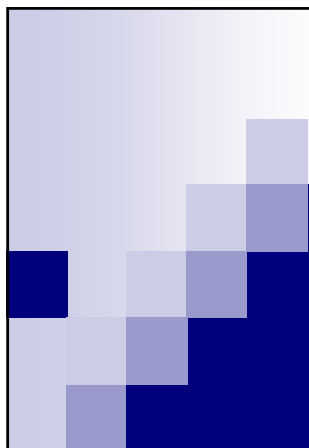
○内訳 大学編入5名(豊橋技科大2・広大教育1・神戸大海洋1・信州大経済1)・本学専攻科6名

3. 重点課題と具体的戦略

■ — 定員の確保・充足 —

1. 入学志願者の2倍以上の確保
2. 原級留置者数の削減
3. 退学者数の削減
4. 編入学者数の増加

丁寧な教育、手厚い学生支援



専攻科

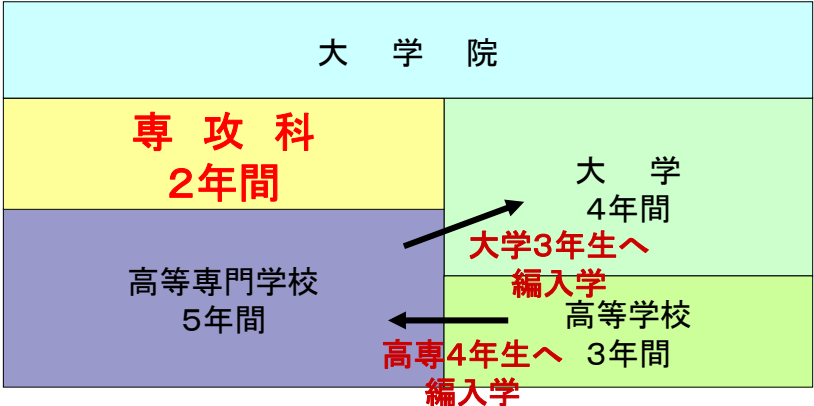
海事システム工学専攻
産業システム工学専攻

外部評価委員会
平成23年6月1日
専攻科長 岡山正人

 広島商船高等専門学校
Hiroshima National College of Maritime Technology

専攻科とは

専攻科とは、主として高等専門学校の卒業生を対象に、さらに深く教育研究を行えるように設けられた2年生の課程で、学位授与機構の行う試験に合格することで、大学卒業と同じ「学士」の学位が授与される。



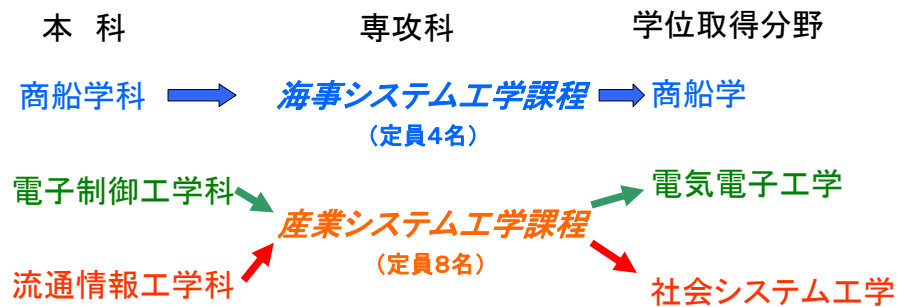
大 学 院	
専 攻 科 2年間	大 学 4年間
高等専門学校 5年間	大学3年生へ 編入学 高等学校 3年間
	高専4年生へ 編入学

 広島商船高等専門学校
Hiroshima National College of Maritime Technology

2

本校の専攻科の概要

- ▶ 本科における教育の基礎の上に立って、特定の専門領域における**高度の知識・素養を使いこなすこと**によって**理解の程度を深化**させるとともに、**複合領域に対応できる幅広い視野**を身に付け、**高い課題設定・解決能力**を備えた**実践的・創造的技術者**を育成する。



各専攻の目的

■ 海事システム工学課程

海事に関わる幅広い知識・技術を持ち、海上輸送に関わるシステムの技術開発やマネジメントができる人材を目指す。

■ 産業システム工学課程

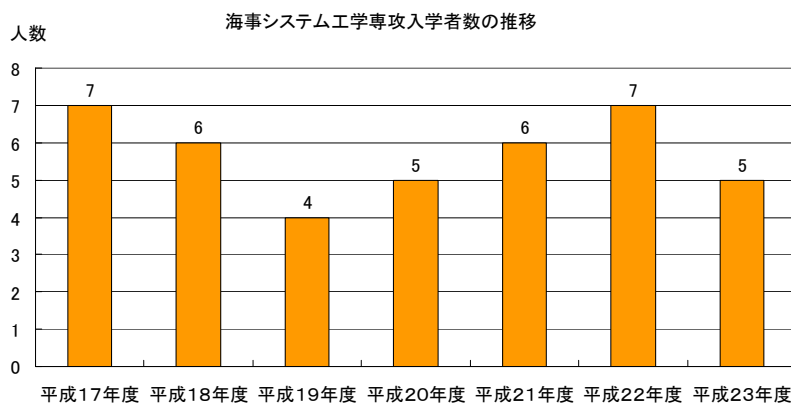
▶ 電子制御工学(電気・電子工学)

電子制御に関わる高度な知識・技術を持ち、制御機器・システムの技術開発や管理ができる人材を目指す。

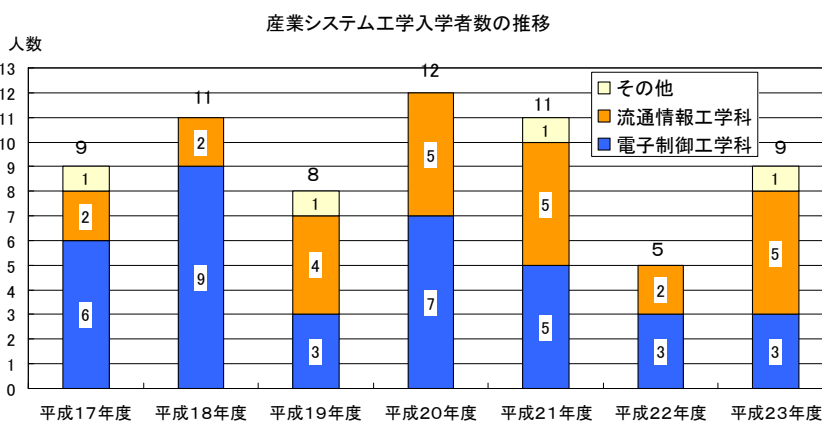
▶ 流通情報工学(社会システム工学)

経営や情報に関わる高度な知識・技術を持ち、流通や物流の技術開発やマネジメントができる人材を目指す。

入学者数の推移 ー海事システム工学専攻ー



入学者数の推移 ー産業システム工学専攻ー

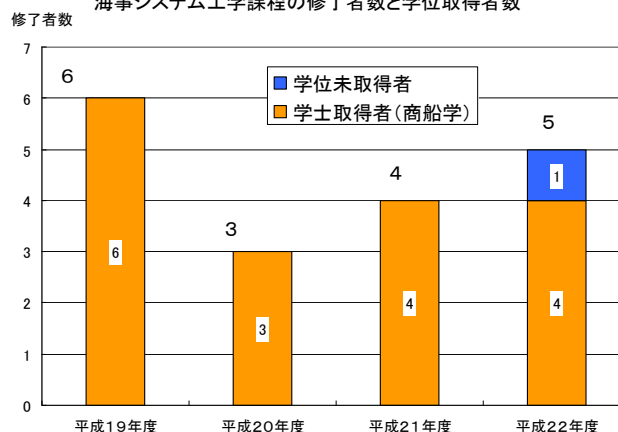


主な特別研究のテーマ

海事システム工学専攻		レーダーを用いた船舶交通の実態解明に関する研究 ー備讃瀬戸航路を事例としてー
		実海域及び実験水槽での錨の把駐性能に関する基礎的研究
		台車を用いた路盤の違いによる貨物振動の比較
		データ同化による操縦性指数の推定法に関する基礎的研究
		異種接着剤の塑性曲げ加工
産業システム工学専攻	電気・電子工学分野	画像処理によるロボット制御の研究
		成績処理システムマークシートの精度向上についての研究
		高専ロボットコンテスト用モータドライバの製作
		RFIDによる老人介護福祉施設の出退館管理システムに関する研究
		波形制御パルス磁場による高温超電導バルクの着磁
	社会システム工学分野	まちづくりにおける住民協働に関する一考察 ー竹原町並み保存地区における寺小屋学習・交流塾の試みー
		高齢者を対象としたPC操作支援システムの開発
		おと姫バスの貢献度と経済評価に関する研究
		広島県島嶼部における農業と観光のあり方に関する考察
		物流シミュレーターを活用した自動搬送システムの改善に関する研究

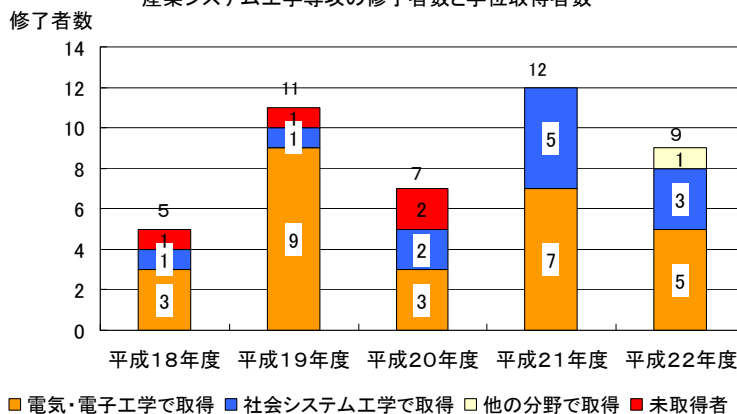
修了者数と学位取得者の推移 ー海事システム工学専攻ー

海事システム工学課程の修了者数と学位取得者数



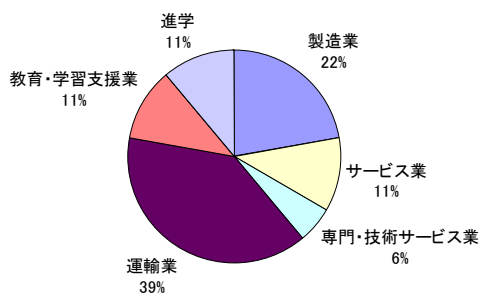
修了者数と学位取得者の推移 ー産業システム工学専攻ー

産業システム工学専攻の修了者数と学位取得者数

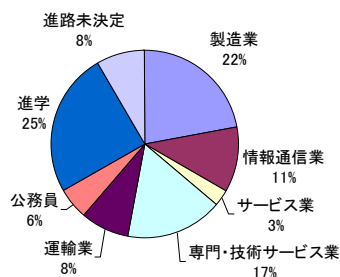


進路の状況

海事システム工学専攻の進路先

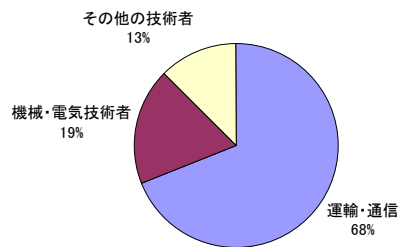


産業システム工学専攻の進路先

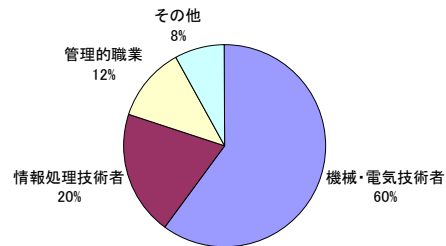


就職先(職種別)

海事システム工学専攻の就職先(職種別)

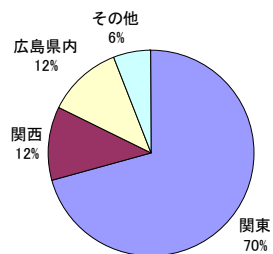


産業システム工学専攻就職先(職種別)

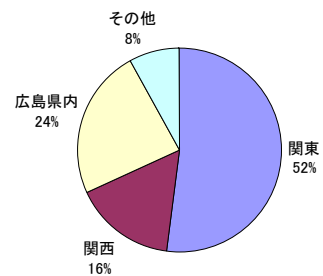


就職先(地域別)

海事システム工学専攻の就職先(地域別)



産業システム工学専攻の就職先(地域別)



専攻科の課題

- 本科の教育課程の変更にともない、専攻科における教育課程の見直しを行う。
- 志願者の増加
- 学外での研究発表およびインターンシップの充実

技術教育支援センター

外部評価委員会
平成23年6月1日
センター長 吉田哲哉

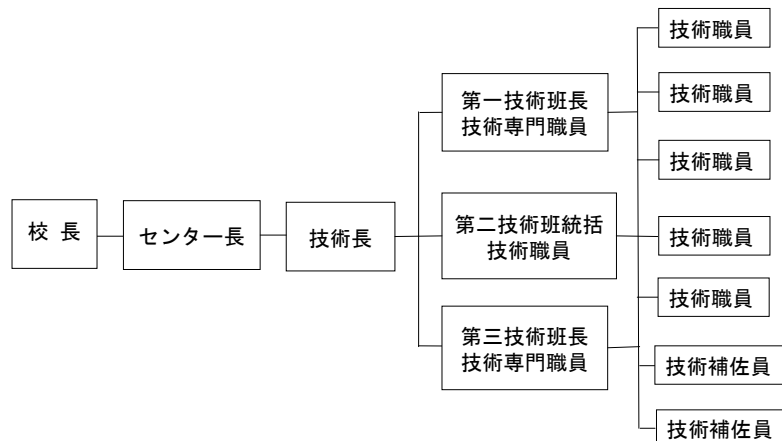
技術教育支援センターの目的

本校の教育研究活動における技術支援に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するとともに、活動の推進・支援とそれに必要な環境整備を図る。

技術教育支援センターの業務

1. 学生の実験・実習、情報処理教育、卒業研究等の準備及び技術指導・支援
2. 教員の教育研究活動（共同研究を含む）への技術支援
3. 実習工場、実験室、実習室及び各学科等の共通機器の保守・管理
4. 実習船「ひかり」の運航・管理
5. 学内構成員の技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施

技術教育支援センターの組織



技術教育支援センターの主な設備

汎用旋盤	レーザ加工機	ロープ破断試験機
NC旋盤	レーザ彫刻機	ディーゼル機関
ボール盤	ワイヤ放電加工機	蒸気タービン
立てフライス盤	3Dプリンタ	水管ボイラ
NCフライス盤	CADシステム	冷凍装置
マシニングセンタ	風洞水槽	万能材料試験機

技術教育支援センターの具体的な業務

実験実習・卒業研究・専攻科特別研究等の実験実習の準備及び技術指導・支援、
商船演習・コンピュータリテラシー・情報基礎・情報演習等の授業の支援

栈橋・ひかり・カッター・伝馬船等の維持管理、
工場内各種機器の保守管理

学内ネットワーク機器・学内サーバー機器・情報演習用機器設備等の保守管理、
事務部サーバー機器・事務部クライアント端末等の保守管理、
メディア教育基盤センター技術管理

各種ものづくり製作、作業依頼への対応

技術教育支援センターへの作業依頼

平成22年度作業依頼数 168件

製作品名	使用目的	依頼者
レーダー/ARPAシミュレーター PC修理	実験実習	商船学科
鉄の円板製作	実験実習	電子制御工学科
コースター製作	実験実習	専攻科
ステンレス棒材の加工	卒業研究	電子制御工学科
寮西門門扉滑車修理		寮務係
得点板修理	授業	一般教科
仕切パネル修理		図書係
フラワーフェスティバルストラップ製作	広報活動	企画係
水素電池作成	公開講座	商船学科
ジュラコンの加工	ロボコン	ロボコン部
SHIOKAZE船底塗装	クラブ活動	ヨット部
テストピース製作	研究	広島大学

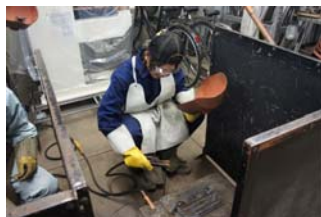
実習の様子



旋盤加工



実習船「ひかり」



アーク溶接



油清浄機の分解組立

メディア教育基盤センター

外部評価委員会
平成23年6月1日
センター長 岩切裕哉

メディア教育基盤センターの目的

教育研究活動における情報技術、メディア、ネットワーク等の利用及び、教育研究活動の推進・支援とそれに必要な環境整備を図る

メディア教育基盤センターの業務

1. 教育研究における情報技術、メディア、ネットワーク等の利用を支援
2. 教育研究活動を実施する上で必要な機器、システム、ネットワーク等およびそれらを設置した教室等の施設の維持、管理、運営
3. 情報技術、メディア、ネットワーク等を利用した研究教育についての研究・開発
4. 情報技術、メディア、ネットワーク等の利用を促進するための情報提供や技術指導および技術相談

主な設備

教育用電算機



- ハードウェア
 - コンピュータ(FUJITSU FMV-B5220) :56台
 - レーザープリンタ(Canon LBP 3800):2台
 - 実物投影機:1台
 - 情報教育支援システム用中間モニター:28台
- ソフトウェア
 - Windows XP, Office 2010等
- 教育支援システム
 - Wingnet

ネットワーク・サーバ



- DNS, 認証サーバ
- Proxy・URLフィルタリングサーバ
- メールサーバ
- ウィルス・プロテクトサーバ
- バックアップサーバ
- ネットワーク監視システム
- WWWサーバ

活動内容と成果等

- ネットワークシステムの維持・管理
- 教育用電算機の維持・管理
- 高齢者向けパソコン教室
- テレビ会議システムを用いた遠隔授業支援

練習船広島丸

外部評価委員会
平成23年6月1日
船長 清田耕司

1. 練習船広島丸の目的

- 海事技術者を目指す商船学科の学生が、**実海域**で**航海を経験**する中で、船舶の**運航・管理**に関わる知識と技術を身につけさせる実習を目指す。
- 教員・企業・大学など研究機関との共同研究、公開講座・海上教室・体験航海・一般公開を行うことで海事思想普及を目指す。

2. 組織と運営

学 位	職 名	氏 名	担当 科目	船 務 分 掌
学士(法学)	船長	准教授 清田 耕司	海事法 I	総指揮
	機関長	准教授 茶園 敏文	機関管理	機関部全般の指揮監督
	一等航海士	助教 藪上 敦弘	運用学特論、航海概論	甲板部全般の指揮、規律・風紀の維持
	一等機関士	助教 大内 一弘	設計製図	機関部全般の保守管理
	甲板員	町田 優		甲板部員統括、船体整備・属具整備始動監督
	操機長	山田 健治		機関部員統括、機関整備・管理
	操舵手	宮田 亮史		操舵・見張り・気象観測・清水管理
学士	甲板員	清水 和敏		甲板部諸作業
	機関員	三阪 晃		機関部諸作業

3. 活動内容と成果等

航海実習(航海コース)



航海当直 操船



Look out



風を求める



船位を求める



入港係船作業



タンツー
木甲板を磨く

航海実習(機関コース)



機関始動前確認



主機関の計測



主機関の計測



食事当番・片付け



ベッドメイキング



岸壁清掃

体験航海・海上教室



一般公開 満船飾



船上教室



タンツー体験



体験航海セミナー



操舵体験



海洋観測

国際交流推進室

外部評価委員会
平成23年6月1日
室長 桑田明広

国際交流推進室の目的

国際社会に対応できる学生の育成と教職員の
国際交流の推進を図る。

国際交流推進室の事業

1. 外国人留学生交流活動への支援
2. 日本人学生交流活動(語学研修等)への支援
3. 学術交流活動への支援

国際交流推進室の組織図



留学生部門

在籍留学生の出身国:

ラオス、モンゴル、
インドネシア、ベトナム

◎ 教員チューター、学生
チューターを各1名ずつ配
し、細やかな対応や助言を
行なう。

- ・ 日本語教育
- ・ 社会見学やスキー実習
- ・ その他、対外的な要請



学生交流(語学研修)部門

8月30日～9月14日
学生 6名、引率教員2名
フィリピン
Emilio Aguinaldo College
AMA Computer University
個人負担は約16万円
(奨学後援会の補助→総額60万円)



学術交流部門

◎短期留学生／教員の受け入れ

・10月に2週間、フィリピンの提携2校から、学生3名と引率教員1名。



◎教員の共同研究

・専門科目の教授法
・対照的研究など



学外組織との関係

◎ 高専機構

- ・留学生交流促進センター(沖縄)

◎ 中国地区高専

- ・国際交流活性化プロジェクト(津山)

◎ その他

- ・現代GP(富山)など

◎ 広島県

- ・広島県留生活躍支援センター
- ・広島地域留学生協議会